令和元年度中山道みたけ館特別展

戦国最強の武将と呼ばれた男 ～槍の才蔵～

可児才蔵展 -KANI SAIZOU-

■主な展示資料



「伝 可児才蔵甲冑」



『大寺記』

- ❖「伝　可児才蔵甲冑」（才蔵寺所蔵）
- ❖「伝　可児才蔵三叉槍」（才蔵寺所蔵）　←注目！
- ❖『福島正則感状（写）』（才蔵寺所蔵）
- ❖『大寺記』（大寺山願興寺所蔵）

■関連イベント　―参加費無料・申し込み不要―

越前・美濃をつなぐ花嫁たち
～宗珠尼の可能性を探して～　←注目！

・日時　令和2年1月13日(月・祝)13:30～

・講師　福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
学芸員　石川 美咲氏



❖才蔵は果たして朝倉家の末裔なのか?明智光秀と朝倉氏の関わりなどについてお話しいただきます。



才蔵寺（広島市）の才蔵尊像

群雄割拠し天下をうかがう戦国の時代、応仁元年（1467）の「応仁の乱」の開始から、織田信長が天下統一に乗り出すまでの約100年間にわたるこの時代は、室町幕府の無力化にともない、日本の歴史上最も混乱した戦乱の世として知られています。

その後、信長が「本能寺の変」で倒れ、豊臣秀吉がその遺志を継ぐものの、最終的には智将・徳川家康が天下統一を果たし、以後、徳川幕府による安定した時代が長く続くことになります。この戦国の荒れた時代から家康の天下統一の時代にかけて、数々の戦が繰り返され多くの武将が誕生しますが、なかでも「戦国最強の武将」と称されるのが「可児才蔵（吉長）」です。

「可児才蔵」は「槍の使い手」として、慶長5年（1600）、美濃国不破郡関ヶ原（岐阜県不破郡関ケ原町）を主戦場として行われた「関ヶ原の戦い」では東軍側の福島正則に仕え、敵の首の数17を討ち取ったその武功を称えられるとともに、自ら討ち取った首の数があまりにも多く、一度に持ち帰れないため目印として首に「笹」を差したことから、家康からは「笹の才蔵」と呼ばれるようになったとも伝えられています。

才蔵は福島正則に仕える以前、多くの武将に仕えたといわれていますが、そのうちの1人に明智光秀がいます。くしくも2020年、大河ドラマでは明智光秀が主役として取り上げられ、明智荘が置かれていたとされる現在の御嵩町及び可児市周辺は、ゆかりの地として注目されています。しかしながら、才蔵と光秀ら戦国武将との関わりや才蔵自身の生涯については、その出自も含め謎に包まれた部分が多く残されています。ただ唯一、才蔵の出生から幼少の頃について触れられているのが、大寺山願興寺（岐阜県御嵩町）の寺伝『大寺記』に記載されている内容です。これによると才蔵は同寺で生まれ7歳までをこの御嵩の地で過ごし、その後、数多くの戦で武功を成したと記されています。

今回の特別展では、現在の御嵩町で生まれ幼少期を過ごしたとされる「可児才蔵」の謎に迫るとともに、「戦国最強の武将」と呼ばれる所以や、その生涯、そして才蔵の魅力などについて様々な角度から紹介をします。

中山道みたけ館　御嵩町図書館・郷土館

〒505-0116　岐阜県可児郡御嵩町御嵩1389-1
TEL 0574-67-7500　FAX 0574-68-0005
URL http://www.town.mitake.gifu.jp/mitakekan/

入館無料

[開館時間] 平日10時～18時 / 土・日・祝日9時～17時
[休 館 日] 毎週月曜日・12/17・12/27～1/4・1/21・1/31・2/18
※1/13・2/24は開館します。

中山道みたけ館　検索

